

学校において予防すべき感染症一覧

学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間は、学校保健安全法施行規則第 18 条・第 19 条で定められています。以下の感染症にかかったときは、学校での感染拡大防止の観点から、出席停止となりますので、学校に連絡してください。基準に定められた期間は自宅で休養してください。なお、治癒後の登校時に「学校感染症報告用紙」（保護者の方が記入する書類）を提出ください。

感染症の種類		出席停止期間の基準 ※以下の基準に基づき、主治医が判断する
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MARS）、鳥インフルエンザ	治癒するまで
第二種	インフルエンザ	発症した後（発症の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹（はしか）	解熱後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
	風しん	発疹が消失するまで
	水痘（水ぼうそう）	すべての発疹が痂皮（かさぶた）化するまで
	咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消失した後 2 日を経過するまで
	新型コロナウイルス感染症	発症した後（発症の翌日又は無症状の場合は検体を採取した日の翌日を 1 日目として）5 日を経過し、かつ、症状が軽快*した後 1 日を経過するまで * 解熱剤を使用せずに解熱し、かつ、呼吸器症状が改善傾向にあること
第三種	結核	医師により感染のおそれがないと認められるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	医師により感染のおそれがないと認められるまで
	コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフス	医師により感染のおそれがないと認められるまで
	腸管出血性大腸菌感染症	
	流行性角結膜炎	
	急性出血性結膜炎	
	溶連菌感染症	
	ウイルス性肝炎	
	その他の感染症	医師により感染のおそれがないと認められるまで
	感染性胃腸炎	
	マイコプラズマ感染症	
	RS ウイルス感染症	
	その他アデノウイルス感染症 ※プール熱・流行性角結膜炎・胃腸炎以外	
伝染性紅斑（りんご病）		
ヘルパンギーナ		
手足口病	※欠席の必要がない場合あり	
帯状疱疹	医師により感染のおそれがないと認められるまで	
その他の感染症		

*1「学校において予防すべき感染症の解説＜平成 30 年 3 月発行＞」公益財団法人日本学校保健会を参考にしてください。